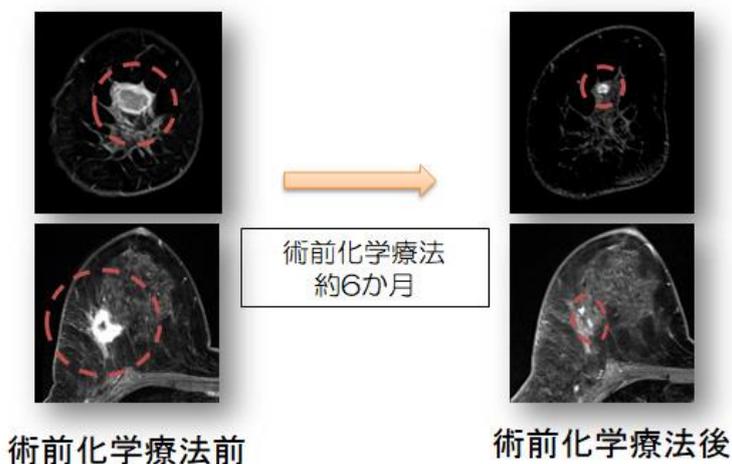


## 術前化学療法

- 当院では術前化学療法、つまり手術の前に抗がん剤でがんを小さくしてから手術を行う方法を積極的に取り入れています。
- 術前に抗がん剤を投与することにより、切除する範囲が縮小できたり、薬の効き具合を確認することができます。

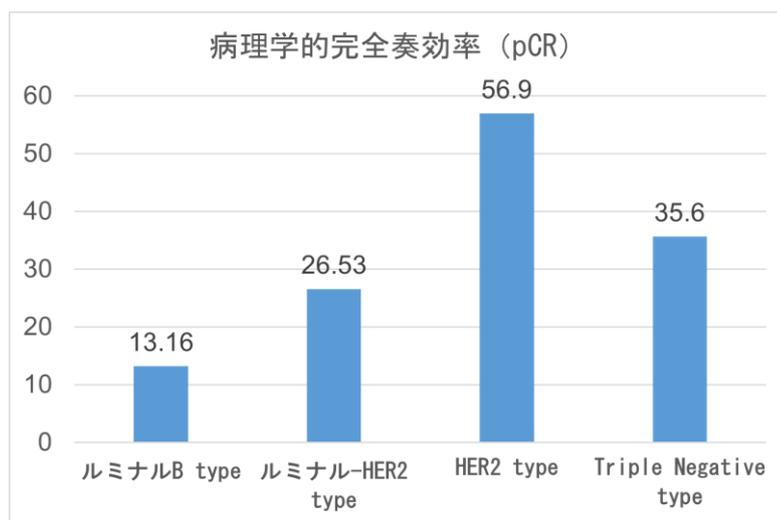


- 乳がんの種類（サブタイプ）によっては、術前化学療法終了後、手術してみたら顕微鏡学的にがんの浸潤部分が完全に消えてしまう（=病理学的完全奏効：pCR）ことがあります。

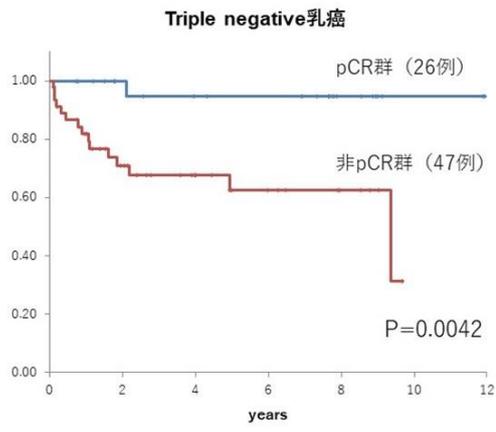
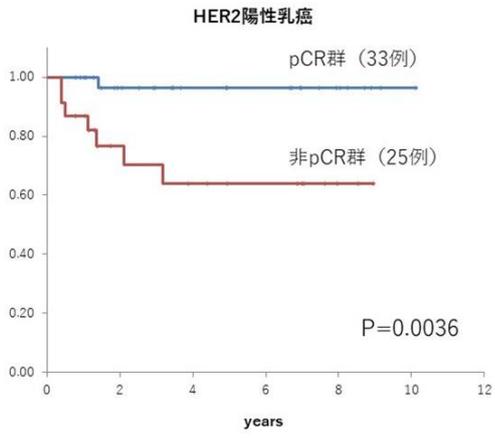
- 病理学的完全奏効率**（術前化学療法終了後の手術で切除した乳腺に顕微鏡学的に浸潤癌が残っていなかった割合）は、**36.3%**でした。

（過去12年間：2008年～2020年、248例の成績）

- 特にHER2陽性乳がんとTriple negative乳がんは、下の図のように、術前化学療法で非常に高い病理学的完全奏効率（pCR率）を得ることができ、次頁のように再発率も有意に低く、5年無再発生存率は94～95%と良好です。



当院での術前化学療法のpCRと無再発生存率（2008～2020年）



以上の結果から、HER2 陽性乳がん, Triple negative 乳がんには、術前化学療法をお勧めしています。